

忘れられた二宮金次郎

小学校の校庭には必ずあった薪を背負いながら本を読んで歩く二宮金次郎の石像がなくなつて久しい。今の子どもは勿論、若い人たちは二宮金次郎を知る由もない。

そうした中、筆者の自宅からJRの駅に向かう途中の道沿いにある自動車教習所の入り口に、いつからか金次郎像が置かれている。ネットで調べてみると、どうもこの社長は二宮尊徳から経営哲学の多くを学んできたらしい。そのせいか、ここは都内でも人気ナンバーワンの自動車教習所とされる。

映画「二宮金次郎」

一般的には忘れられつつある二宮尊徳をもっと知ってもらおうと「映画『二宮金次郎』製作委員会」等によって映画「二宮金次郎」が作られ東京都写真美術館ホールで上映されてきた。この1月26日アンコール上映を終え、今後は車にフィルムや映写機等を積み込んで全国を回り、各地で上映をして

いくようだ。

映画は、両親が早死にし、兄弟が離れ離れになるところから始まる。薪を背負って勉学に励む少年時代から、いきなり小田原藩桜町領（現栃木県真岡市）での復興への取り組み場面に飛ぶ。独自の仕

結局は成田山新勝寺に籠つて断食祈願を執行する。そうする中で「一円融合」という観念に辿り着く。断食が終わるところに、農民が迎えに来、桜町領に戻るが、それからの金次郎は以前にもまして復興に励み、見事これを成功させると



農的デザイン研究所代表 蔦谷 栄一

法・やり方で村の復興に励むが、これに反発する農民も多く、さらには小田原藩から派遣された侍・豊田正作がこれら農民と結託して

いうストーリーである。

報徳思想に学ぶ

金次郎の取り組みを邪魔するようになり、復興はなかなかすすまない。すると金次郎は突然に失踪。

映画にとどまらず書籍でも新たな尊徳関係本が出されており、その1つが小田原のある神奈川県の前知事である松沢成文氏による

「教養として知っておきたい二宮尊徳」(PHP新書)である。この本の副題は「日本の成功哲学の本質は何か」とあるように「江戸末期に大活躍した農村復興や行財政再建の実践者であり、類い稀な改革者」である尊徳の行動哲学・経営哲学を広く伝えようとしている。

ここでは「報徳思想・報徳仕法」のキーワードとして、至誠、勤労、分度、推譲、積小為大、一円融合、の6つが取り上げられている。

誠実を尽くすこと、仕事に励むこと、程をわきま守ること、家族や子孫、他人や社会のために譲っていくこと、小さな努力を積み重ねていくこと、の重要性、そしてすべてのものは互いに作用しあい、一体となって結果をもたらすという世界観がその核心をなす。

今、すべてが金に還元されてしか語られなくなる一方で、異常気象による災害が多発し、災害防止と復興への取り組みが求められる時代。「報徳思想・報徳仕法」は教えるところ大。再評価の流れは必然だ。